

# 「回 復」

～受けた恵みを流す～

創世記 11:1-9

## ■ ノアの時代…

神様は一度世界を大洪水で裁いたことがあります。「主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。」(創 6:5) 大洪水は必然だったと言っても過言ではない酷い時代でした。けれど、神様は、ご自分の前に正しく生きていたノアに箱舟を作ることを命じ、ノアと家族、雄と雌一つがいつの動物達を守られ、新しい人類のスタートを備えられました。このように、神様は裁きの中にあっても慈しみをもっておられる方です。新しくスタートした人類。ノアの後に信仰の父アブラハムが登場してきますが、それまでに何もなくダイレクトにいったのではありません。バベルの塔の出来事が起こります。

## ■ バベルの塔…

当時、石ではなく窯で焼いたれんがが用いられました。れんがと瀝青(今のアスファルトのようなもの)で建てた建物は防水もでき、本当に堅い丈夫なものでした。経済的な豊かさがあったことがわかります。そして、ただ塔だけを建てたのではなく、塔を中心とした都市を作りました。人々は自分の名をあげようとしていました。これは単純に有名になろうということではなく、神様なしの共同体を作って自分の思う通りにしようという意味です。彼らは神様なしで自分達の考え方、哲学のために生きる経済複合体・宗教複合体、つまり神様に反逆する共同体を作ったのです。バベルの塔はおそらく現在のパレスチナにあるジブラットだと思います。ジブラットの写真や絵を見たことがあるでしょうか? 大きな塔には屋上まで続く階段があります。このように塔を建てて人々は自分の限界を乗り越えようとし、都市を作って繁栄して神の所まで行きたかったのです。けれど、全知全能の神様、私達を造られた神様の前にはバベルの塔は全然届きません。私達が偉くなりたいと思ってもその偉さは神様の前では何の偉さにもなりません。人間の文明や哲学は神様の前には無といえるほど小さいのです。神様はバベルの人々の言葉を混乱させ、地の全面に散らしました。一見、ただの裁きのように見えますが注意深く読んでみるとそうではないことがわかります。「さあ、降りて行って、そこで彼らのことばを混乱させ、彼らが互いにことばが通じないようにしよう。」(創 11:7) 「降りて行って」とあります。神様は私達の罪を遠くから分析して裁いたのではありません。神様は自分に反逆している人々のところへ、罪の現場へわざわざ自ら来られたのです。言葉を混乱させ、地の全面に散らされたのは裁きの中にも人々がこれ以上反逆の罪を続けないための憐れみがあったのです。

## ■ 私達にとってのバベルとは…?

自らが強くなりたいたいという思いは地位・名誉・家を所有すること・いい車に乗ること…etc 物理的な安心を得るといふ価値観を生み出します。それがあつた程度満たされると次に出てくるのはナショナリズムです。国家という権力をもつことで自らが築いたものを失われないようにしたいという価値観です。そ

れが戦争を呼び起こします。愛ではなく権力で一致していくのです。これは教会の中でも起こりうることです。教会に集まってもその中に愛の一致がなくなったらどうでしょうか? 傷ついている人がいて、その人達のために真剣に祈り、助けることがなくなったらどうでしょうか? 教会に集まる意味はありません。けれど、私達の教会はそうではありませんね。

## ■ 受けた恵みを流すために集まっている

イエス・キリストは家畜小屋に来て下さいました。私達の一番汚いグチャグチャの心の中に自ら降りてきて下さったのです。そして、その心の中に光を灯して下さいました。「皆さんの教会はどんな教会ですか?」と聞かれたらどう応えますか? 私達はいつも一緒にいるので時には喧嘩もします。でも、それだけでは終わりません。そのことを通して共に研ぎ合い、神様が造られた本当の姿に戻っていくわけです。ここがいいのです! 世の中は喧嘩したらもうなるべくかかわらないようになっていきますが教会は違います。バベルの人々は自らの価値観が合う者同士が集まってその都市が繁栄するために大きな権力の象徴を建てて民を一つにしようとしていました。けれど、私達はそうではありません。私達が集まる理由は、自らの一つの考えをおしつけるために、また破壊するために集まっているのではありません。それぞれが神様から、教会の家族から受けた愛と恵みを流すために集まっています。私達の顔は恵みで満ちています。受けたものが背後にいっぱいあるのです。教会の家族が共に祈ってくれた恵みが溢れているのです。

## ■ キリストの愛によって

日本と韓国。私達は元々散らされました。国家では痛みの歴史があり、色々あります。けれど、神様の愛を得ると心が繋がります。そして心が繋がると、言葉が通じなくても、たとえ痛みがあつたとしても共に手を取り合い、共に涙を流して祈り合うことができるのです。キリストの愛によって散らされた民族と民族が再び結ばれるのです。これが崩壊されたバベルの統一なのです。

## 祈りましょう

今も世界ではたくさんの悲しい争いや事故が起こっています。私達の周りでも心の高ぶり、傲慢な気持ち、相手をみくだす思いで壊れてしまった関係があるのなら回復していくことができますように。

イエス様が取られた方法は一人一人に神様が会い、その人の心が癒されて回復されることです。その回復を与えられた私達です。受けた恵みを痛んでいる方々に流していきます。

(要約者: 全本 みどり)

(7月31日)